

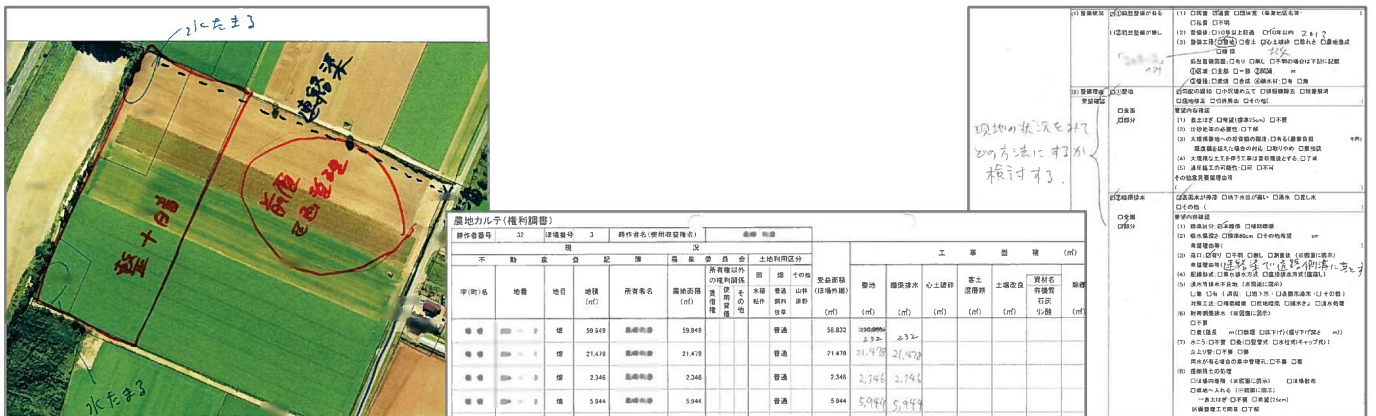
今回紹介する団体: 水土里ネット北海道

取組概要

内容: 北海道農政部が事業実施にあたり、受益者から聴き取りした内容を共有する仕組みである「農地カルテ」について、水土里情報システムを活用した専用アプリを開発し、情報の作成及び共有に関する効率化に取り組んだ。

経緯: 北海道農政部では、計画的な事業推進を図るため、実施計画策定時に受益者から聴き取りした整備の必要性、内容、範囲などの情報を「農地カルテ」として取りまとめ、事業完了まで各担当者で共有する取組を行ってきた。

しかし、従来の紙媒体による聴き取りは、資料の事前準備や結果の整理・共有に時間と労力、保管スペースの確保等を要し、担当職員の負担となっていたことから、水土里情報システムのバージョンアップ(令和3年度)及び北海道農政部職員のインターネット環境の改善等を機に、専用アプリへの移行による効率化を図った。

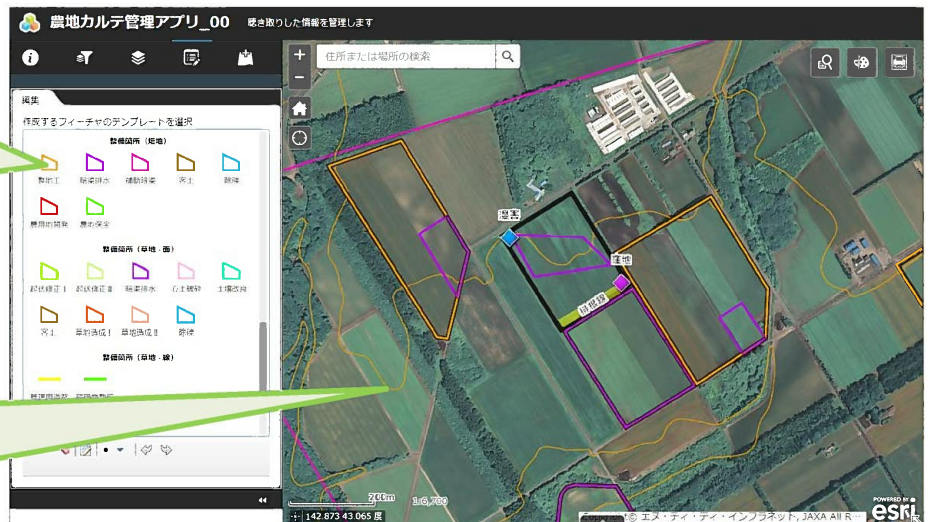


紙媒体による農地カルテの例



整備工種や支障要因に合わせたテンプレートを配置

水土里情報システム内の等高線や整備履歴データ等の重ね合わせも可能



農地カルテアプリの構成

取組による効果

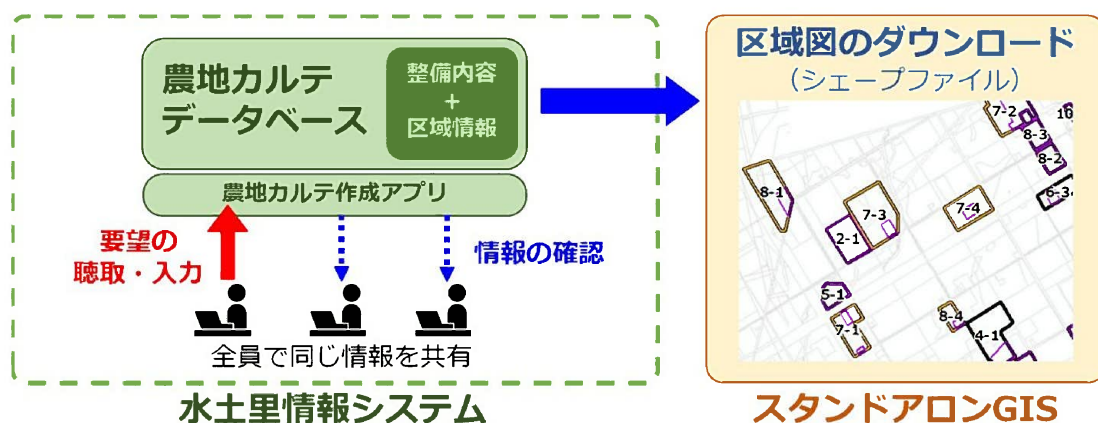
- 受益者毎の聴き取り図面の作成が不要になり、事前準備作業が軽減された。
- 水土里情報システムのデータを参照することで、整備方針に関する合意形成に際し、受益者に対し各種情報の提示が容易となった。
また、このことにより事業着手後の整備規模の変更等、事業期間中の計画変更リスクの軽減を期待。

【主な参照情報】

- 地番、林地情報(林班・小班) ……権利関係の事前把握
 - 過去の基盤整備履歴 ……整備条件の確認
 - 農業施設情報(水利施設・農道) ……周辺関連施設の把握
 - 等高線 ……地理的条件の把握
- 聴き取り内容が随時Webシステムに登録・共有されるため、複数の担当者が参加する聴き取りや整備方針検討について、効率的な実施が可能となった。
また、登録されたほ場情報は、位置等を含めモバイル端末で把握可能であり、広域な農地を担当する北海道職員にとって、ナビゲーションとしての利用により、移動等に係る負担の軽減を期待。

今後の活用予定

スタンドアロンGISを併用し、作成した区域データから受益地番を抽出するなど、より高度な利活用が可能であり、関係職員のスキルアップを図る予定。



GISシステムのバージョン情報

ArcGIS Enterprise Ver 10.8.1

■お問い合わせ先

北海道土地改良事業団体連合会 技術部 地域支援課

011-206-6209(直通)